

スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI)

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】 (参考)

SSIの取り組み全体として、優秀な競技成績を収めつつ、専門的学業を続ける学生たちにとって、より適切かつ効果的な環境作りに継続的に努めている点は評価できる。今年度も「教育課程・学習成果」と「教員・教員組織」のそれぞれの領域において、多様な学部へ所属するアスリート学生たちへの適切な対応が模索され続けている。さらなる成果に期待したい。

ただ、単年度の課題というよりも、継続的な課題として①学生へのアンケート（授業改善のもの、4年生向けのもの）の利用、②スポーツ健康学や各学部との科目配置の関係性・連携の方法、③カリキュラムツリーにおける各学部専門科目との関連性の検討・改善を進めることが重要と考えられる。その場合、前年度の成果、評価点を検証しつつ具体的な達成目標が設定されることが望まれる。特に③については、学部主催科目にはより具体的に例示したり、体系的だけでなく順次性も視覚化したりするなど、さらなる具体的な改善について記述されることが望まれる。

今後とも、より適切な教育・教員組織に向けた取り組みを実現するためにも、SSIと所属学部との兼務によって極めて多忙な状況の中で、持続可能かつ効果的な体制作りが望まれる。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2019年度は概ね年度目標に沿った取り組みを行うことができた。今年度も中期目標に準拠して、継続的な取り組みを進める。特に指摘された継続的課題のうち、

①については、継続して行ってきた学生を対象としたアンケート（4年生向けを含む）を実施し、得られた結果（学生の学習状況や授業改善点など）を集計分析し、運営委員会において議題に取り上げ、その活用方法について審議する。その結果を踏まえSSI参加学部から選出されている運営委員（1号委員）を通じて、学部教授会と連携する方策の検討を継続して進める。

②については、SSI参加学部が主催する科目のうち、SSIカリキュラムポリシーに沿った科目をSSI専門科目として抽出してもらえよう引き続き働きかける。また昨年も実施した「オリンピック・パラリンピックを考える」の科目に、スポーツ健康学部教員やスポーツ研究センターの署員に講師として登壇してもらえよう促すことで、連携を図る。

③については、各学部から抽出してもらっている専門科目をSSIのカリキュラムマップ・ツリーに沿って、その関連性を順次性を含めて検討を進める。

ただし、これらの取り組みは、専任教員を持たないSSIにおいては、執行部や特定の教員の過負荷にならないよう、限られたマンパワーを持続可能な活力にする工夫も、今後検討課題として取り上げていく必要がある。

なお、以上は平常時を想定した記述であり、今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、様々な制約を受けることが余儀なくされる。そのため柔軟かつ適切な対応について執行部を中心として検討していく。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

SSIの2019年度大学評価結果総評では、①学生へのアンケートの利用、②スポーツ健康学や各学部の科目との連携、③学部専門科目との関連性、の3点について検討と改善を進めるように指摘がなされたが、各項目において具体的な達成目標が示されたことは評価できる。専任教員を持たないSSIでは、特定の教員に負担が集中しないように配慮しながら、SSI参加学部や、スポーツ健康学部・スポーツ研究センターとの連携を深化させる継続的な取り組みを実施することが期待される。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S  A B

※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

これまで限られた総コマ数の中で、SSI生に対して幅広い教育内容に触れる機会を提供するために、SSIカリキュラムポリシーに基づいて、2015年度にカリキュラム改定を行った（教育内容を整理・集約することで戦略的に総コマ数のゆとりを作った）。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>2016 年度第 4 回運営委員会、2017 年度第 1 回運営委員会において、SSI 所属学部 of 学部主催科目を SSI 専門科目に公開できるよう SSI 参加学部 に依頼した。本件については、2020 年度も引き続き参加学部に対して、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目の拠出を依頼していく。</p> <p>SSI 学生の特異性を考慮した「スポーツ実習 I・II」について、2017 年度に具体的な内容や評価方法などが議論され、2018 年度から開講された。その結果、全ての競技に取り組む SSI 学生が履修できるようになり、科目履修の平等生が確保された。</p>	
<p><b>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更に向けた検討を開始する。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SSI 履修要項・講義概要 (シラバス)</li> <li>2016 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録</li> <li>2017 年度第 1 回 SSI 運営委員会議事録</li> <li>2017 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録</li> </ul>	
②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>SSI の学生は各学部 に所属しているため、各学部 で行われている初年時教育に参加している。SSI においては、SSI 基礎科目として開講されている 7 つの必修科目や「スポーツ学入門」などが初年次教育の役割を果たしている。また 2018 年度より開講された科目である「オリンピック・パラリンピックを考える」については、高大接続として 3 つの付属高の生徒に公開されている。</p>	
<p><b>【2019 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	
③学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>キャリア教育に関しては、ILAC 科目ゼロ群に置かれた全学共通の公開科目である「キャリア教育プログラム」科目の利用のほか、SSI 学生が所属する各学部において行われているキャリア教育を受けている。また SSI 独自に提供しているキャリア教育関連科目としては、「アスリートキャリア論」「アスリートのキャリアマネジメント」などが開講されている。</p>	
<p><b>【2019 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SSI 履修要綱、講義概要 (シラバス)</li> </ul>	
<p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例年、大学入学前の 3 月末に、SSI 新入生を対象に SSI ガイダンスを行っている。</li> <li>SSI 学生が所属する学部によっては、年度当初に行われる学部・学科ガイダンス終了後、学部所属 SSI 学生を対象に履修方法などについて、SSI 関連のガイダンスを行っている。</li> <li>2020 年度については、SSI 新入生ガイダンスを、大学が提供する「学習支援システム」を通じてオンライン (オンデマンド形式) で行った。</li> </ul>	
<p><b>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>本来、例年通り大学入学前の 3 月末に SSI に所属する全学生を対象に SSI ガイダンスを行う予定であったが、本年度は新型コロナウイルス感染防止のため、急遽「学習支援システム」を通じたオンラインにより、ガイダンスを行うことになった。ガイダンスは Microsoft PowerPoint で作成した資料に沿って、音声ファイルによる説明を加え指導を行った。履修</p>	

※注 1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

に関して、「学習支援システム」を活用できていない学生が多く認められたため、数回に渡って、監督・部長を通じて、履修に関する情報発信を行った。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・新入生の SSI ガイダンスへの参加について（お願い）
- ・SSI ガイダンスの開催について（ご案内）
- ・SSI 履修のポイント（カリキュラム委員作成）

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S  A B

※取り組み概要を記入。

例年、新年度が始まる直前の3月末ごろに SSI 新入生ガイダンスを行い、その中で履修のポイントや大学における授業の必要性、学業と体育会活動の両立など、修学上の注意事項を執行部の教員を中心に説明している。しかし、新型コロナウイルスの影響を受けて、今年に関しては、大学ホームページを通じて、動画ファイル、音声ファイル、履修の手引きなどを用いて説明した。

SSI 学生は、授業実施日に公式戦が開催されることがあり、授業を欠席せざるを得ない場合がある。その際には、大学の公式書類である「競技参加による欠席願い」を授業担当教員に提出するよう、SSI ガイダンス、各学部・学科のオリエンテーション・ガイダンスにおいて指導している。

授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、「学習支援システム」を利用した資料配布や課題の設定などを行っている。また「学習支援システム」を十分活用できるようにするために、必要に応じて SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いて、情報周知を図るよう促している。

成績不振者に対する指導については、運営委員会およびFDミーティングで情報を共有して対応している。対象学生の所属学部においても、学部独自のルールに従って、面談や学習指導を行っている。今後は必要に応じて情報共有を行い、より一層学部と協力して学習のサポートを行うよう検討する。

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各授業の授業支援システムのホームページ

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。

S  A B

※取り組み概要を記入。

全ての授業において授業外に行うべき学習活動（準備学習など）が指示されており、その内容はシラバスによって周知されている。授業に使用する資料やレジュメなどを「学習支援システム」を通じて事前に配布し、準備学習を行うよう促している。

「学習支援システム」を活用できるようにするために、教員各々の授業の中で「学習支援システム」の使い方を解説している。本システムを十分活用できていない学生が認められた場合は、SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いて、情報周知を図るよう促している。

「学習支援システム」を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各授業の学習支援システムのホームページ
- ・SSI 履修要項・講義概要（シラバス）

④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。

S  A B

【具体的な科目名および授業形態・内容等】※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

- ・いくつかの授業では、「ワールドカフェ」や「クロスロード」などのアクティブラーニングを採用している。
- ・テーマを与えて、グループ・ディスカッション、ディベート、グループワークなどのアクティブラーニングが実践されている授業もある。
- ・「学習支援システム」などを利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業を行っている。

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各授業の学習支援システムのホームページ ・SSI 履修要項・講義概要（シラバス）	
⑤それぞれの授業形態（講義、実習等）に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※どのような配慮が行われているかを記入。 SSI は学生数に対して開講できる総コマ数が少ないため、受講者が教室の定員を超える場合が考えられる。現在は SSI 参加学部から SSI カリキュラムポリシーに沿った科目の提供を受けているため、若干のゆとりが確認できている。今後はさらに参加学部へ依頼して科目数の増加を目指す努力を行う。 一方で、スリム化対象となる過小人数受講者の授業もみられるため、全体的なバランスを考えて検討する必要がある。	
<b>【2019 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI 履修要項・講義概要（シラバス）	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・運営委員会において、全学及び SSI の GPCA 平均集計表を配布している。 ・運営委員会や FD ミーティングにおいて、成績評価方法に関する意見交換を行っている。	
<b>【2019 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・GPCA 平均集計表（全学と SSI）	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布の状況を把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。 ・運営委員会において、全学及び SSI の GPCA 平均集計表を配布している。 ・運営委員会や FD ミーティングにおいて、成績評価方法に関する意見交換を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・GPCA 平均集計表（全学と SSI）	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。 ・競技に専門的に取り組んでいる SSI 学生の特徴を踏まえた学習方法の検討を行い、2018 年度より開講した「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」の単位認定方法や受講生が提出する申請書や報告書に反映させている。	
<b>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017 年度第 4 回運営委員会議事録	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 卒業を間近に控えた 4 年生を対象に「SSI 卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケート内で、SSI 主催科目に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。これらの結果は、執行部で集約し運営委員会において委員にフィードバックを行い、意見交換を行っている。	
<b>【2019 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を組織的・定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 教育課程およびその内容、方法の適切性については、執行部を中心とした、主にカリキュラム委員によって定期的に点検・評価を行っている。同時に質保証委員によっても点検・評価を行っている。その他、SSI 主催科目担当教員によって、定期的に FD ミーティングを行っており、カリキュラム編成や授業実施方法の改善や向上について意見交換を行っている。	
<b>【2019 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※利用方法を記入。 ・ 授業改善アンケートの結果の利用は、主に担当教員に委ねられているものの、SSI 執行部がアンケート結果をチェックし、問題点の洗い出しのスクリーニングを行っている。 ・ 質保証委員がシラバスチェックを行い、シラバスの表現方法や不足分について、正確に記載するよう担当教員に促している。	
<b>【2019 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 各授業のシラバス	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・ 特なし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

**【この基準の大学評価】**

教育課程・教育内容については、SSI 参加学部に対して、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目抛出の依頼が継続的に行われている。「オリンピック・パラリンピックを考える」を、3つの付属高の生徒に公開するかたちで開講しているのは、高大接続への配慮として優れている。キャリア教育としては、SSI 独自に、「アスリートキャリア論」等の複数の科目を開講している。 学生の履修指導について、多くの学生が「学習支援システム」を活用できていない実態を把握し、数回に渡って履修に関する情報発信を行ったことは評価できる。成績不振者に対しては、運営委員会およびFDミーティングで情報を共有しながら指導を実施している。授業を欠席した学生や、復習を希望する学生に対しては、「学習支援システム」を利用して動画を提供する授業が行われている。 具体的な学習成果を把握・評価するための方法として、卒業間近の学生たちを対象に、SSI 主催科目に関するアンケートを実施し、運営委員会において教員にフィードバックを行っているのは、優れた取り組みである。
---

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

## 2 教員・教員組織

## 【2020年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）等内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <b>A</b> B
<b>【FD活動を行うための体制】</b> ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム委員および質保証委員によって、FD活動に関する検討を定期的に行っている。</li> <li>質保証委員会を設置し、執行部と連携をとりつつ、FD推進センターの取り組みも踏まえた活動を進める体制を整えている。</li> <li>全てのSSI主催科目のシラバスチェックを質保証委員が行い、改善すべき点がある場合は、授業担当教員に対して直接改善を求めている。</li> <li>2019年度は第2回、第4回運営委員会終了後にFDミーティングを行い、授業に関する問題点やその改善方法、今後の課題についてなど意見交換を行った。</li> </ul> <b>【2019年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回FDミーティング（2019年7月29日）BT25階C会議室：出席状況の確認など</li> <li>第2回FDミーティング（2020年3月9日）BT25階C会議室：2019年度授業の振り返りなど</li> </ul> <b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul> <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SSI科目シラバス原稿の手引き続き</li> <li>法政大学シラバスWEB入稿システム教員向け入稿ガイド</li> <li>SSIシラバスに関する疑義・指摘</li> </ul>	

## (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし。	

## (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし。	

## 【この基準の大学評価】

SSIでは、カリキュラム委員や質保証委員によってFD活動に関する検討を定期的を実施するだけにとどまらず、運営委員会終了後にFDミーティングを行い、授業に関する問題点やその改善方法、今後の課題等について意見交換を実施している点は、評価できる。質保証委員は、全てのSSI主催科目のシラバスチェックを行い、改善すべき点がある場合は、授業担当教員に対して直接改善を求めている。SSIのFD活動は適切に行なわれていると評価できる。
--

## III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証							
1	中期目標	・SSI質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。							
	年度目標	・18年度に設置されたSSI質保証委員会を開催する。							
	達成指標	・SSI質保証委員会を開催する。							
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">教授会執行部による点検・評価</td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>質保証委員により、運営委員会後に質保証委員会を開催して、シラバスの点検作業等を行った。また運営委員会において、科目責任者を置くようにした。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>—</td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	S	理由	質保証委員により、運営委員会後に質保証委員会を開催して、シラバスの点検作業等を行った。また運営委員会において、科目責任者を置くようにした。	改善策
教授会執行部による点検・評価									
自己評価	S								
理由	質保証委員により、運営委員会後に質保証委員会を開催して、シラバスの点検作業等を行った。また運営委員会において、科目責任者を置くようにした。								
改善策	—								

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S」さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	・SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。	
	年度目標	・各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえるよう、各学部に働きかける。	
	達成指標	・各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえるよう、運営委員会で 1 号委員を中心に意見交換を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		運営委員会においてアナウンス及び情報交換を行った。	
改善策	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
3	中期目標	・学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。	
	年度目標	・18 年度に引き続き、学生アスリートに即した学習方法を検討する。	
	達成指標	・FD ミーティングにおいて、2 号委員（SSI 科目を担当する教員）で意見交換を行い、競技に専門的に取り組んでいる学生に即した学習方法を検討する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		FD ミーティングにおいてスケート部の学生を事例にしたオンライン教育について検討した。	
改善策	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI 生の学習に関する現状を共有してもらう。	
	年度目標	1. 学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。	
	達成指標	1. FD ミーティング等において、学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		2 号委員による FD ミーティングやカリキュラム委員会において、各授業の状況等の情報交換を行い、運営委員会においては全学及び SSI の GPCA 平均集計表を配布して学部間の差異等情報共有を行った。	
改善策	—		
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能な SSI の教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部にも所属する教員との連携を強化する。	
	年度目標	1. 改定が承認された SSI 運営委員会規程を学部長会議に上程する。 2. 専任教員の SSI 主催科目の担当状況を把握する。 3. SSI との連携を促進してもらえるよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえるよう依頼する。	
	達成指標	1. 運営委員会において、改定が承認された SSI 運営委員会規程を学部長会議に上程する。 2. 運営委員会において、専任教員の SSI 主催科目の担当状況を把握する。 3. SSI との連携を促進するよう、スポーツ研究センター運営委員会執行部に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえるよう依頼する。	
	年度末	教授会執行部による点検・評価	

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	S	
		理由	1. 運営委員会において、数回確認作業を行い、運営委員会規定を上程することができた。 2. 専任教員の科目担当状況は、運営委員会での資料配布によって確認された。 3. スポーツ研究センター執行部と連携した結果、SSI 主催科目において、スポーツ研究センター所長・副所長が外部講師として登壇した。 4. SSI 主催科目において、スポーツ健康学部の教員が外部講師として登壇した。	
		改善策	—	
No	評価基準		学生支援	
6	中期目標		1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。	
	年度目標		1. SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容を共有する方策を検討する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 5. SSI 生用ラーニング・サポーター制度を実施する。	
	達成指標		1. SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容を共有する方策について、1号委員（各教授会から選出された委員）、執行部、または、学務部の各学部担当から情報を収集する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 3. 運営委員会において、SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 5. SSI 生用ラーニング・サポーター制度を実施した結果について検討し、次年度以降の活用可能性について検討する。	
		教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
	年度末報告	理由	1. 運営委員会において、情報を収集した。 2. 運営委員会において、検討を行った。 3. 運営委員会において、文学部の事例を紹介し、学部ごとに現状を報告（社会学部や経済学部、経営学部等では独自に行った等）し、意見交換を行った。 4. 大学スポーツ協会（UNIVAS）の関連事業に関わる中で、カリキュラムを構成する科目群の調整を行った。 5. 運営委員会において、検討を行った。	
	改善策	—		
No	評価基準		社会連携・社会貢献	
7	中期目標		・ 関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。	
	年度目標		・ 参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。	
	達成指標		・ 参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。	
		教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
	年度末報告	理由	実施初年度となる 19 年度は 3 名の受講者を受け入れ、各受講者から高い満足度を得ることができた。	
	改善策	—		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【重点目標】

1. 改定が承認された SSI 運営委員会規程を学部長会議に上程する。
2. 全学的な取り組みである履修証明プログラムの開講を実施する。
3. 授業のスリム化対象外科目をゼロにする。

【年度目標達成状況総括】

SSI 運営委員会規定については、運営委員会において数回の確認を行った上で、最終的には学部長会議に上程し、20 年度に執行が決定した。また全学的な取り組みである履修プログラムについては、関連部局との連携により、いち早く実現することができた。授業のスリム化対象科目についてはゼロを目指したが、科目担当者の変更や他の必修科目とのバッティング等もあり、19 年度は受講者 10 名以下の科目が 5 科目出現した。既に授業時間の変更等の対応については、運営委員会において行っている。

【2019 年度目標の達成状況に関する大学評価】

SSI で 2019 年度の重点目標として掲げられた、①SSI 運営委員会規程の学部長会議上程、②履修証明プログラムの開講、③スリム化対象外科目をゼロにする、の 3 点のうち、①②は達成された。履修証明プログラムでは、3 名の受講者を受け入れて、各受講者から高い満足を得ることができた点は評価できる。③については、科目担当者の変更や他の必修科目とのバッティング等もあり、受講者 10 名以下の科目が 5 科目あったが、授業時間の変更等によって対応する取り組みが既になされている。

他学部主催科目の SSI 専門科目としての公開とその量的拡大は経年の課題であるが、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供するように各学部へ依頼する働きかけは、今年度も継続的に実施された。スポーツ研究センターやスポーツ健康学部との連携に関しては、SSI 主催科目に同センター・同学部スタッフが外部講師として登壇した。

IV 2020 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	・ SSI 質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。
	年度目標	・ 本年度、新たに SSI 質保証委員会を編成（新委員を選出）し、同委員会を開催する。
	達成指標	・ SSI 質保証委員会を開催する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	・ SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。
	年度目標	1. 19 年度に引き続き、関連学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえるよう、各学部へ働きかける。 2. 日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更に向けた検討を開始する。
	達成指標	1. 各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえるよう、運営委員会で 1 号委員を中心に意見交換を行う。 2. SSI 主催科目を担当する専任教員を中心に意見聴衆を行い、カリ変に向けたプロセスを運営委員会で検討、共有する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	・ 学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。
	年度目標	・ アクティブラーニングの導入を模索する。
	達成指標	・ 科目の特性や担当教員の意向を確認し、導入が必要、可能な科目を洗い出す。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI 生の学習に関する現状を共有してもらう。
	年度目標	・ 19 年度に引き続き、以下に取り組む。 1. 学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。

※注 1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	達成指標	1. FD ミーティング等において、学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能な SSI の教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部にも所属する教員との連携を強化する。
	年度目標	1. SSI との連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 2. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。 3. オンライン授業への対応に関する各種情報を収集し、必要に応じて支援策を講じる。
	達成指標	1. SSI との連携を促進するよう、スポーツ研究センター運営委員会執行部に依頼する。 2. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。 3. オンライン授業への対応に関する各種情報を提供してもらい窓口を設置し、執行部内で適宜共有・検討する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標	1. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 3. オンライン授業への対応に当たって必要な情報を適宜発信する。
	達成指標	1. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 3. SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いて、情報周知を図る。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	・ 関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。
	年度目標	・ 19 年度に引き続き、参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。
	達成指標	・ 参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。
<p><b>【重点目標】</b></p> <p>・ 日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更に向けた検討を開始する。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b></p> <p>1. SSI 主催科目を担当する専任教員を中心に意見聴衆を行い、カリ変に向けたプロセスを運営委員会で検討、共有する。 2. カリキュラムポリシーに沿った新カリキュラムを検討する。 3. カリキュラム検討委員会を組織する。</p>		

**【2020 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】**

2020 年度の中期目標・年度目標では、「日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更に向けた検討を開始する。」との年度目標が新たに追加されて、2020 年度の重点目標としても掲げられた。そのための施策は、適切性と具体性を満たしている。2020 年度の中期目標・年度目標では、アクティブラーニングの導入や、オンライン授業への対応にかかる文言も追加された。

専任教員を持たない SSI では、人的リソースに限られるとの事情は理解できるものの、しかし、年度目標において、いまだに質保証委員会の開催そのものが年度目標や達成指標とされたり、年度目標と達成指標に同一の文言が記されたりする点は、適切性の観点から問題がある。今後の改善が望まれる。

学生の学習指導に関して、SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いた指導によって、学習支援システムの利用がどのように促進されたか年度末に評価するなどの質保証の検証をお願いしたい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

## 【大学評価総評】

優秀な競技成績を収めつつ、専門的学業を続ける学生たちを対象とする SSI において、アスリート学生たちの実態をふまえながら、履修指導・学習指導においてきめ細かな対応がなされている点は、とくに高く評価できる。卒業間近の学生たちを対象に、SSI 主催科目に関するアンケートを実施し、教員にフィードバックを行っているのも、優れた取り組みである。高大接続やキャリア教育も適切に実施されている。

教育課程・教育内容に関しては、各学部で SSI 専門科目を提供するように依頼する働きかけは、今年度も継続的に実施された。スポーツ研究センターやスポーツ健康学部との連携は、一定の成果を得ている。SSI 参加学部や、スポーツ健康学部・スポーツ研究センターとの連携を進展される取り組みについては、継続的な粘り強い努力を期待したい。

ただし年度目標において、委員会の開催そのものを年度目標や達成指標としたり、年度目標と達成指標に同一の文言を記したりする点については、改善が望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。